

1 平成 28 年度事業についての意見・感想

経営全般	<p>◎■全般的に今般の教育課題を的確に捉え、教育現場のニーズを踏まえた研究、研修、相談・支援の各事業が展開されていると思います。特に研修講座の 95.7%が、「大変よい」＋「よい」100%の高い評価となっています。今後も継続してほしいと考えますので、集計結果だけでなく、なぜそのようになったのか、あるいは改善点や改善方策などをセンターが簡潔に記すことにより、結果が「評価」になると考えます。</p> <p>また、(1) 研究事業について、で長期研修生について触れられていますが、共同研究・実践研究としての側面は理解しますが、その受け入れは、(2) 研修事業については入らないのでしょうか。記載が重複してもいいと思いますので、半年以上の長期にわたる研修生の指導は、研修事業にも位置づけるべきと考えます。</p> <p>◎■探究型学習に関する研修等、現下の課題に臨機応変に対応されている研修内容であったと考えます。特に探究型学習については、今後、すべての教員が理解し、体得できるような研修体系の構築が必要ではないかと考えます。</p> <p>◎特別支援、ICT 教育、探究型学習の研修など現代的な課題への対応も行われています。</p> <p>◎各講座については、受講者にアンケートを実施し、回答を基に意見や要望を確実に次年度の内容・運営等に反映していただいていると実感できました。心から感謝申し上げます。</p>
研修事業	<p>◎資料 3 評価アンケートから、受講者のニーズに応じた講座が開設されていると考えます。</p> <p>◎研修講座において、サテライト講座やアフタヌーン講座の企画は参加者の裾野を広げていると感じています。出前講座によって学校の校内研修が専門性のある充実したものになっているとも聴いています。今後とも、親しみやすい教育センター、参加したくなる研修講座の計画をお願いします。</p> <p>◎◇初任者をみると、指導教員等校内の指導のおかげで、授業づくりなどがよいものになっていることを実感しています。2年目からが自立した教員としてやっていけるかが問われるので、「フォローアップ研修」は大変意義深いと感じています。若い教師へのサービスの指導も課題になってくるでしょう。「フォローアップ研修」での様子（指導力、勤務意欲、課題等）を教育事務所と共有できるようお願いします。教育事務所でも市町教育委員会と連携を図り、個々の課題に対応したりフォローしていくよう心がけていきます。</p> <p>■研修講座の講師を小中学校の教諭に依頼した際、「研修講座をどのように運営するのかイメージできず不安を感じる」「ねらいや具体的な内容、時間配分等について教えてほしい」と複数の問い合わせがありました。県教育センターには、講師を受諾いただいたら、できるだけ早い時期に研修担当者から講師に直接連絡をとってもらうことをお願いしてきました。次年度も継続した丁寧な対応をお願いします。</p> <p>◎初任研等に引き続いてのフォローアップ研修や出前サポート等、工夫が見られます。</p> <p>◎講座のアンケートの評価が良好であり、職員の皆様の努力に感謝申し上げます。</p> <p>◇今後ともサテライト講座・アフタヌーン講座など参加しやすい計画をお願いします。</p> <p>◎よく準備された研修が行われていると感じている。今後ともよろしく願いたい。</p> <p>◇研修等多すぎて先生方がかえって大変にならないようお願いします。</p>

研究事業	<p>◎◇資料4研究事業について、「探究型学習」「タブレット等の効果的な活用」など、時流に応じた研究がなされている。研究で明らかになったことを、さらに講座内容に反映させ充実を図ってほしい。</p> <p>◎探究型学習推進協力校から県教育センターの継続指導の要望に応じていただきました。継続性が研究の推進に大きく寄与したと感じています。</p> <p>◎昨年度から行われた県学力調査（試行）についての解説を、各教育事務所で年度初めに説明してもらい、調査で評価しようとする方向性を具体的に捉えることができました。</p> <p>◇研究事業として行われている、探究型学習の授業づくりは、現在、各学校で試行錯誤されていることであるため関心も高く適時の事業として研究報告が待たれる。内容の充実を期待したい。</p>
相談・支援事業	<p>◇「カリキュラムサポートプラザ」は学校現場が活用しやすい支援・研修であり大変有り難い。事業内容の充実を期待したい。</p> <p>◎相談業務も相当の件数になっており、県民の期待を反映したものといえます。</p>
その他	

2 平成29年度への取組みについての意見・感想

経営全般	<p>◇来年度についても各事業を継続し、さらに成果を上げてほしいと考えます。特に県独自の学力等調査と探究型学習の推進に関する研究事業、学習指導要領改訂に向けた情報発信や研修事業、教員育成指標の策定などについて、引き続き、センターを中心に取り組んでほしいと思います。</p> <p>■様々な工夫をしていただいている中ではあるが、若い教員の不祥事や、メンタルの不調が報告されている。「緊急対策会議」と連携をはかりながらも、多忙化の中で教員が前を向けるような方策を、研修でも研究でも取り入れていただきたい。</p> <p>◇平成29年度については、大きな変更をせず、地方公務員法の一部改正を受け、今後のあり方について議論を深める年度としてはどうか。</p>
研修事業	<p>■学習指導要領の改訂に伴い、新しく導入されるアクティブ・ラーニングの視点からの「主体的・協働的な深い学び」への授業改善（本県で同義とする探究型学習）、「社会に開かれた教育課程」に係るカリキュラム・マネジメント、道徳の教科化に伴う指導法と記述による評価、外国語教育の教科化に伴う授業時数1コマ増など、各学校では新学習指導要領実施に向けての準備を進めていかなければならないので、これらの内容に関する講座は現場にとってのニーズが高いと考える。そこで、資料1改善策(2)〈出前講座要請への対応〉に止まらず関連する講座を実施してほしい。</p> <p>■管理職にとっては、特に、学校教育目標の見直しも視野にカリキュラム・マネジメントをどう進めていくのかについて、また、チーム学校の推進に伴い、学校に入る教員以外の専門性を持った職員とどう連携を図りながら効果的な学校運営体制を構築していくかについても、研修の必要感が高いと考える。資料1改善策(1)〈ファシリテーション講座新設や学校運営基礎講座拡充など〉を充実させてほしい。</p> <p>■若い教師の不祥事が複数起きました。初任者研修やフォローアップ研修、または新採管理職研修における研修内容にも反映させていく必要があると思います。教育公務員の自覚やサービスの理解をより具体的に扱っていく必要を感じます。もちろん教職員室や教育センター及び教育事務所との検討の中で進められていくことと思いますが、対策の必要性があります。</p>

	<p>■「探究型学習推進講座Ⅱ」は、協調学習の実践が主となっているようです。受講した教員が、「協調学習をすれば探究型学習の推進になる」というような方法論の受取にならないよう配慮していく必要があると感じています。また、総合や協調学習によらない各教科の探究型学習を模索している学校も増えてきています。それに応えられるような講座内容になっていくよう配慮いただきたいと思います。</p> <p>◇学校における OJT 推進の一環として「育成と普及」の充実を図る観点から、講座の新設や対象校種を拡大されるとのことですので、この研修の効果が各学校で発現されるよう、フォローアップについてもよろしくお願いします。</p> <p>■山形県の大きな教育課題の一つとして、ベテラン教員の大量退職による、教育理念や教育技術の若手教員への適切な継承の問題が指摘されている。各学校では、意図的な OJT なども行われているが、県センターの研修の中でも、ベテラン教員と若手教員を組み合わせた研修なども有効な取り組みとなるのではないかと思う。特に、児童・生徒理解や授業づくりなどの研修会で、ベテラン教員の教育理念や教育技術が若手教員への継承が期待できるでは。</p> <p>■教員の不祥事防止のための初任研や2、3年目研修についてお願いしたい。SNSを含めた公私の区別や不祥事が起きた時の学校の様子、該当職員の処分や家族の様子もリアルに伝えていただきたい。その上で意見交換をお願いしたい。</p> <p>小学校での、学習意欲や能力のやや高い児童（上位層）を伸ばすための講座を開設してほしい。</p> <p>■「20年目に行う研修」について かなり柔軟な運用が可能と受け取らせていただきました。ただ、実施するからには有意義なものにしなければいけないと考えます。形だけの実施にならないよう、明確な実施要項をお示しいただければ幸いです。</p>
研究事業	
相談・支援事業	<p>■資料2(3/6)について、通常学級在籍の特別な支援が必要な児童生徒が増えていく状況を受けて、W1SCIVなどによる検査や診断ができる教職員を増やすような養成システムの構築と講座の開設をお願いしたい。</p> <p>■言語担当者を育成するような長期研修を、津山小の協力を得ながらできないか。</p>
その他	◇教材(道具?)も進化してきて、時代の流れで仕方がないのかもしれませんが、検証していく作業も大事なのでは・・・と思っています。

3 県教育センターへの期待や要望

経営全般	<p>◇学校が課題解決やOJTの推進のためにセンターWeb ページにある研究成果等をさらに活用してほしいと感じています。活用のための工夫やWeb ページのPRが十分であるかどうかご検討ください。</p> <p>◇教育センターの発信は大きな影響力を持っています。大変な業務ですがシンクタンクとして一層の充実をお願いします。</p>
研修事業	<p>◇小学校を中心に山形県も大量退職・大量採用時代に入っています。教員の資質向上や教育の質保証が求められている中で、一時的に量的な拡大をしなければならないという、量と質のアンバランスな状態と言えます。したがって、教育県山形を継承・発展させるためには、初任者研修から各年代・経験などに応じて、きめ細かな研修が必要であると感じます。教育県山形の伝統と新たな教育文化の創生や教員育成のために、これからも中核的な機能を果たしてほしいと期待しております。</p>

	<p>◇山形県も教職員の大量退職・大量採用の時代に移行しているため、拠点校指導教員方式による初任者研修の見直し、教職員のライフステージに沿った研修の在り方の見直しなどに取り組まれている。そこで、教員採用に伴う3月時点での一週間程度の現場研修の実施を検討してはどうだろうか。また、今後クローズアップされてくる各学校のOJTについて、「各学校に任せる」というスタンスではなく、「これまでの研修に代わるものとして、各学校の実情に応じ特色を生かしながら、どうやってOJTを進めればよいのか」を提示するとともに、資料1改善策(1)「普及」に関連して、「各学校のOJTが、県教育センターや各教育事務所、市町村教育委員会で実施する研修とどう繋がるのか」についての全体構想プランを作成し提示いただくと混乱なく進めることができると考えます。</p> <p>◎県教育センターでも教育事務所でも「研修をつなぐ」をキーワードに、受講者が校内OJTにつなげていくことが肝要と感じています。今後とも働きかけをお願いします。</p> <p>◇県教育センターの研修というよりは、本県の教員研修体系に関わることであるが、「初任者研修」については、複数年度にわたる研修へと研修制度を改善していくことが必要であると思う。近年、2年次研修ができたことは望ましいことであるが、複数年度とは3年程度の期間にわたる研修を想定している。ここ数年増えている若手教員の不適応や不祥事を防止し、学力向上を図っていくためにも、複数年度にわたる極め細やかで体系的な研修が求められると思う。もちろん、それに伴う予算措置（研修を支える講師経費等）が発生するが、教員の資質向上のため県教育行政の英断を期待したい。</p> <p>◇事務職員の研修は教育事務所主催の研修会一回のみと聞いている。チーム学校の有力メンバーである事務職員の資質向上にかかわる研修も充実させていきたい。</p> <p>■研修会や講演会において受講者に伝える注意事項について</p> <p>例えば、スマートフォンやタブレット端末等でスクリーンや黒板の内容を記録する受講者をよく見かけます。その都度講師の許可等について伝えてくださっているかと思いますが、県教育センターとしての方針を示していただいてもよいのではないかと思います。</p> <p>■研究主任を対象とした講座開講について</p> <p>負担感を持つ研究主任は、かなり多いものと考えられます。過去には、そのような研究主任を対象とした講座が開設されていましたが、すぐに廃止されてしまいました。新しい学習指導要領を受けた学校研究の在り方や、学校研究の運営の在り方などについて研修できる機会となる貴重な講座を復活させていただきますようお願いいたします。</p>
<p>研究事業</p>	<p>◎今年度同様、探究型学習推進協力校への指導主事派遣をお願いします。また、教育事務所の学校経営計画指導訪問の際の指導主事派遣も大変助けられていますので、今後もよろしくをお願いします。</p> <p>■「県学力調査問題」をどう授業改善・学力向上に活かすかということについて、教育事務所等指導主事に解説していただくと、教育事務所の要請訪問等で大いに反映できると思います。現段階では、教育事務所の解釈のみで行うことには不安があります。</p> <p>◇全国学力・学習状況調査等の結果分析など、いわゆるシンクタンクの機能の充実を期待します。また、経営方針にもある研究成果の還元と有効な活用が図られるには、そのための仕組みづくりと、それが適切に機能することが重要であると考えます。</p>
<p>相談・支援事業</p>	<p>◇資料2 (5/6) について、学校教育にとって不易な部分の一つに「学級経営」があります。一度学級が荒れてしまうと、担外教職員などのサポートだけでは改善が</p>

	<p>難しい。そこで、県教育センターで「荒れた学級の立て直しメソッド」を研究し、指導主事が実際に学校内に入って教職員と連携しながら、荒れた学級の立て直しと担任教員の力量アップを現場で指導してくださるシステムがあると有り難い。</p> <p>■言語通級教室指導の担当教員はベテラン教員ばかりとなってきました。早急に言語担当教員の養成を考えていく必要があります。</p> <p>■特別支援学校教員の専門性の維持・向上</p> <p>実は、このことは、特別支援学校においては、かなり大変重要な課題であります。各特別支援学校単位で研修会等を実施していますが、なかなか「専門性の向上」までには至らない状況があります。やはり体系的に研修を組んでいく必要があると思われるので、その在り方についてご指導いただいたり、県教育センターと各障がい種の特別支援学校とのコラボレーションによる研修会などを開催できるとありがたいと考えております。</p> <p>■特別支援学級担任（担当教員）の育成について</p> <p>ここ数年特別支援学級担任・担当教員等の支援に力を入れていただき、大変心強く、そしてありがたく思っております。ただ、特別支援学級担任が毎年のように変わる場合が大変多いと伺っておりますので、いくら研修の機会を設けていただいても、言葉は不適切ですが、暫定的な対応の在り方についての研修になり「育成」までには至らないのではないかと思います。教育庁義務教育課と連携して、各小、中学校長に対して、「特別支援学級担任が頻繁に変わる」状況と、そのことにより特別支援学級における教育の充実が妨げられている状況があることについて説明していただくとともに特別支援学級担任育成の必要性についてご理解いただく機会を是非設けていただきたいと思います。願っております。</p>
<p>その他</p>	<p>◇ご承知の通り、山形市は平成 31 年度から中核都市へ移行します。それに伴い教職員研修の一部も県から移譲される予定です。来年度から本格的に山形市の教職員研修内容と研修計画を策定しようとしていますので、県教育センターのご指導とご助言をどうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>■高校では、校長会の申し合わせで、派遣依頼を所属長あてに 1 本にしていると記憶しているので、教育センターにおいても県立に関しては同様の扱いにしていかがいか。また、教育庁内の者に対しての礼状は不要と思うが、いかがか。</p> <p>◇新任の先生の配置先などは小規模校の方がむいているかと思えます。</p> <p>◎◇■「山形教育」について</p> <p>大判でカラー印刷になり、大変読みやすく（見やすく）なりました。しかしながら、発行が年 4 回から 3 回に減ったとはいえ、指導主事の皆さんにとっては、様々な業務が増えている中で、編集作業は結構大きな負担になっているのではないのでしょうか。さらに購読者数も減っていると伺っておりますし、担当なさる指導主事の皆様のやりがいや少しづつ薄れてきているのではないかと懸念しているところです。そこで、発行の存廃や冊子としてではなく「お便り」的なパンフレットにしてより広く配布するなどの思い切った見直しをしていただいてもよいのではないかと思います。また、教育現場においても、多忙感を感じている教員が原稿執筆を依頼され、かなりの負担を抱えながら取り組んでいる状況があるということが報告されることがあります。原稿執筆を依頼された教員が全てそうだとは言いきれませんが、仮にそういう教員がいるのだとすれば、例えば、次のような対応をしていただければ幸いです。</p> <p>① 計画的に取り組むことができるよう、これまで以上に早期に原稿執筆の依頼をしていただく。</p> <p>② 原稿を依頼する際には、状況によっては気兼ねなく原稿執筆の依頼を断ることができることを丁寧にお伝えていただく。</p>

